

夜間学校 ニュース

1989年 9月 8日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

みんなで つくろう

みんなの 会館

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

三人よれば 何とかの 知恵

記録 破りの大雨は 止められぬか

大酒は止められる？

九月にはよく雨が降るとは承知のことだが、今年の降り方は並ではない。九月の月間最多雨量としては明治三十年の四三六・七ミリというのが、二ヶ月での記録らしいが、今年は一日から六日までにして二七七・五ミリ降っており、このままいけば、新記録は確実とされている。

いくら仕事があっても、これでは稼ぎにたええさというものだ。マア、上旬に降れば、アフレの切れる中旬以降にはあまり降らないだろうという観測をたててナゲサメにするしかない。本当にそうなるてほしいものだ。アブレを持たない仲間にとっては、せめて一日置き

か、三日に一回ぐらいいびりてもらいたいところだろうが、天然自然のこと、どうしようもない。ところで、どうしようもないという言葉がつきものなのが一つある。酒だ。どうしようもない酒飲み、カール中、でどうしようもない奴、……。だが、酒を飲むということは自然現象ではなく、人間が自らすることだ。降る雨は止められなくても、酒は人の意志で止めることができる。

仲間の死

本籍、住所、氏名不詳、50歳位の男性、身長158センチ、中肉、坊主頭、遺留金品は小銭入れ、招待券、鍵、右の者は、昭和62年8月20日午前5時30分頃、西成区萩之茶屋愛隣センター東側路上にて発見されたもので、同日午前3時（推定）同所において死亡したものと見られる（死因不詳検査中）。
身柄引取人不明につき、検視解剖のうえ、北斎場にて火葬に付したので心当たりの方には西成区福祉事務所まで

とりりとめなしの

雑談。放談。独言

盆明けで仕事もどうやら盆前と同じ程度に出てきたようです。クルマもセンターの回りを二重、三重になってとりまいてはいます。だいたい八月はニュースが少ない季節ということになっていましたが、今年はどうも様変わりのように、政治家、腐敗やら少女連続殺人やら難民騒ぎやらで話題は尽きない一ヶ月になりました。

★ ◇ ★

「雨が多いな、仕事に行ってもきっちり単価を呉れん場合があるで」

「最低六〇〇〇円は出してもらわんと、今はアブレが六二〇〇円ねんから当然や」

「この前なんか、仕事でぬれたのに、ヌレ代やいうてたった五〇〇円出しよった」

「コインランドリー一回分やな」

「昼まで仕事やるかどうかがひとつの別れ目や、三時までやったらまず一日分てるな」

「雨の時のやり方はいろいろや、時間割りですとところもあるし、ぼんと一日分出すところもある」

「あやしかったら電話したらええ、来てくれいいうのやったらどうなっても一日分出してもらわなな」

「だいたい、人夫出しには

雨でも一人出てるんやろ、まるまる親父の儲けになる

(下から聞く)

「来年の七月までやけ

ど、そこまで選挙を引

き延ばすかな、二の十

一月にあるといひ説も

あるで」

「社会党も一八〇人ぞ

立候補するのはいかに

とか言い出すのもある

し、タイヘンやで」

「勢力を本当に振るる

まがあるんかな」



「ほちほちいこか」のテーマで開く初の個展に向け、作品づくりに励む祐森健一さん
 京都府相楽郡精華町山下条、相楽共同作業所で

★ ◇ ★
 「八月はニュースラッシュやな、礼宮の婚約発表もその一つや、肝心の皇太子の方はなかなか決まらん」
 「みんな、要するに皇后になるのは嫌やわけや」

重いアルコール依存症だった京都府相楽郡東町別所中山、無職祐森健一さん(52)が、一年半前から始めた陶芸を通して立ち直り、初めての個展を今秋、地元で開く。テーマは「ほちほちいこか」。どん底まで落ちて人間何とかなる。気長に少しずつ頑張ろう——そんな思いを込め、作品づくりに打ち込んでいる。

「来年は結婚式や即位式、立太子と祝いごとが続くことになる、これはXデーどころとちがう、えらいことや」
 「それに政治が絡んでくるな」
 「衆議院の任期はいつまでや」

1日酒2升の苦しみ

アルコール依存症 陶芸で克服

地元の中学を卒業後、いったん大阪の板金工場に勤めた。しかし、数ヶ月後、十時間かけての生計を立てるため二十歳のころ帰郷。土木作業員、トラック運転手と、眠る時間も惜しんで働いた。酒にのめりこみ始めたのはそのころ。「仕事の疲れと生活苦から逃げたかった」

二十六歳で結婚、子供も生まれた。しかし、酒は飲み始めれば朝から晩まで。四十歳のころには「一日一升五合から二升飲んだ」。家で暴力を振るったり、皿、花瓶など約百五十点を出品する予定だ。祐森さんは「迷惑をかけた人たちやお世話になった人に見て頂きたい」と話している。

初の個展 妻も感激

京都・祐森さん

路上で暴れたりした。幻覚と幻聴も現れ始めた。昭和五十八年十一月、無意識のうちに産院に入院、アルコール依存症と診断された。酒を絶って半年後に退院できたものの、その後うつ状態があらわれて無気力感に悩まされた。

一昨年四月、障害者が自立を旨として陶器づくりなどに取り組んでいる同郡精華町山下条、相楽共同作業所(広瀬明彦所長)を訪れたのが転機となった。祐森さんは「早く働けるようになれば」とも思っています。ゆっくり一生懸命やってくれば、と家族で応援しています」と話している。